

2001年1月30日 発行（隔月刊）

# 新宿連絡会

## NEWS VOL.21

やい直しのできる社会を！  
路上死のない21世紀を！  
誠に遺憾ながら21世紀も新宿連絡会は  
活躍します。



### 新宿・池袋越冬 越冬闘争特集号

12.23越冬闘争支援連帯集会報告  
上野公園問題ようやく決着  
越冬パトロール班報告  
越冬医療班報告  
越冬チラシ  
越冬風景写真  
池袋越冬報告  
自立支援センターの状況  
笠井の仙台紀行  
財政報告など

定価100円（カンパ込み）

# 活動 報告

12月23日

2000年—2001年

新宿・池袋越年越冬闘争支援連帯集会を  
四谷区民センターで開催しました。

2000年12月23日（土）新宿四谷区民センターにて新宿・池袋越年越冬闘争支援連帯集会が100名の参加で開催されました。

集会の冒頭に2000年メーデーや10月国会デモの様子を記録したビデオを上映しながらこの一年を振り返り、続いて野宿者・人権資料センターの安江鈴子さんから「東京の野宿者の状況」の報告を受けました。東京都から委託された調査結果にもとづいて都内6000名の野宿者の切実な状況が説明された後、とりわけ冬を迎えて深刻度を増している路上の人々への支援の重要性を訴えられました。

新宿連絡会事務局の笠井和明さんからは集会基調（案）が提起され「仲間の命を仲間の力で守り抜くことが越冬闘争の最大の意義である。新宿、池袋のエリアの仲間、その周辺の仲間をパトロールと二拠点の炊き出しで結び、高齢、病弱な仲間を支え、多くの仲間の生活保護を勝ち取り、自立支援センター、なぎさ寮など行政施策も積極的に利用していくよう呼びかけよう」



との基調（案）は全体の拍手で確認されました。

続いて、渋谷のじれん、山谷争議団、三多摩野宿者人権ネットワークから連帯の挨拶を頂き、また、新宿、池袋の当該から力強い決意表明が発せられ、仲間の命を守る冬のたたかいへの決意を全体で確認しながら集会は幕を閉じました。

（当日の集会基調全文はホームページ  
<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>  
にて閲覧できます。）

## さくら寮、なぎさ寮、越冬施設それぞれ今年も冬の間だけオープン！

都区共同事業の越冬施設 さくら寮(新宿区内藤町)は88名の枠で12月20日から開設され、実質生活保護施設に準じた扱いで病弱者、高齢者、障害を持った仲間などが新宿区44名を筆頭に各区から入寮を済ませました。新宿連絡会では毎週日曜日面会行動をしながら個別の生活相談などを受けています。

他方、なぎさ寮(大田区東海)は誰でも利用できる2週間の無料宿泊事業施設に特化し、300名の枠で1月10日から事業が開始、新宿区110名を筆頭にこちらも各区から続々と入寮が続いています。「なぎさ寮内でも就労支援策を！」と連絡会が要求し続けてきた結果、今年も職守での求職活動、面接の交通費支給、就職支度金の支給などの就労支援策が受けられます。

### 上野の仲間を応援しよう！14日都庁へ！

上野公園の仲間が今、東京都建設局による強引な追い出し工事の被害を受けそうになっている。上野公園科学博物館前の24件のテントが集中している所を狙い打ちで工事をするから「出ていけ」と突然通告があったのが11月。この寒空の中、どこへ行けばいいのか？と上野の仲間は建設局東部公園緑地事務所と3度にわたる交渉をし、また連日の抗議行動を展開しているが、東京都からは納得出来る回答はなく、ただ「出ていけ」の一点張り。わざわざこの時期に狙いましたように突然工事をする必然性はどこにもない。まさに追い出しを目的とした工事以外の何ものでもない。上野の仲間、そして山谷争議団の仲間は、この工事計画に反対するため、来る14日（木）午後2時より、東京都建設局公園緑地部に対する抗議行動を行なうと決定した。現場の役人の対応に業を煮やした結果だ。建設局の対応如何では、今後の「路上生活者対策」の推進、なかならず自立支援センターの増設問題にも直結する大きな問題である。福祉局は「追い出しでは何も解決はしない」といいながら他方で建設局が追い出しのための工事をどんどんやるという、そんなダブルスタンダードが許される訳がない。都政の「路上生活者対策」の基本姿勢が何であるのか、この際、はっきりとさせてもらおう。事態がどう進むのかは、建設局の対応によって決せられる。14日（木）午後2時都庁前に新宿の仲間も結集しよう。上野の仲間を孤立させず全都の仲間の力で追い出しを中止させよう。

(12月10日付け新宿連絡会チラシより)

上野公園追い出し工事問題  
話し合い移転の合意で  
ようやく一件落着きました。

### 上野公園排除問題はようやく解決へ！

上野の仲間に対する追い出し工事計画をめぐって、去る14日、全都実では都庁建設局公園緑地部に対する抗議行動を百名規模の結集で行なった。対策すら何にもない一方的な追い出し工事は許さないというのが、俺たちの考えだ。自立支援センター台東寮が出来たからと言って、その近くの上野公園の仲間を「見てくれが良いように」と一方的に追い出そうなどという目論見自身がふざけた話である。しかも、この計画、かつて新宿の強制排除を手がけた責任者古川局長（当時の道路部長）の案だと言う。上野の仲間を先頭に都庁建設局に抗議の声をあげ、その後代表団による申し入れ書提出及び交渉に入った。この席で担当課長内山は「工事は排除を目的とするものではない」「言葉足らずな面があった」「今後の工事に当たっては、皆さんの話しを聞きながら進めていきたい」と言明。一方的なやり方ではなく、話し合いによる解決を行なうと確約した。これにて、当該の仲間と上野公園との話し合いによる解決の道がようやく開けた。一件落着である。一方的なやり方に抗議をあげた上野の仲間の声がようやく行政に伝わった。これも仲間が泣き寝入りせずたたかってきた成果だ。東京都建設局による一方的な排除工事を全都の仲間でも打ち破った力でこの冬を乗り切る、全都四拠点（山谷、渋谷、池袋、新宿）越年闘争に勝利しよう！今年は各地との協力体制をより強化しながら全都規模の仲間のつながりを作りだして行く。たたかう仲間の団結で仲間の命を守り抜こう！

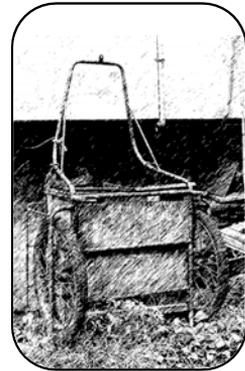
(12月17日付け新宿連絡会チラシより)



# 特集



# 新宿、池袋 越年の取(り)組み



# 越年越冬闘争 を終えて

パトロール班 星将隆

私が新宿の越年越冬闘争に参加するようになってから、今年で五回目になります。新宿連絡会としては、七回目の越年越冬闘争ではないでしょうか。かつての西口地下インフォメーション前拠点も今ではさっぱり様変わってしまって、相変わらず野宿をさせない第三建設の放送がスピーカーから流され続けています。かつて私が加ったインフォメーション前、炊き出し拠点では、野宿当事者である仲間がお互いささえ合って、体の弱い仲間を手作りの医療ハウスにつなげたり、新宿に来たばかりの仲間をブルーシート内の集団アオカン（共同で寝ること）につなげたりしながら、仲間の命を守っていく取り組みの中で、様々な団結を培ってきました。その中には、仲間内でのつまらないトラブルやケンカもあり私もくたびれてしまったことが度々あります。そんな越年越冬闘争も、98年、不幸にもおこった2・7インフォメーション村火災によって、拠点は中央公園ポケットパークへと変りました。

中央公園ポケットパークでは、三回目の越年越冬闘争になります。毎年この時期が来ると「パトロール班の体制は大丈夫だろうか」と心配したりする私ですが、積極的に参加してくれる仲間の支えがあって、何とかやりぬいています。

おとしから去年、そして去年から今年へと越年越冬のパトロール班の責任者をうけもつ私ですが、今回、パトロールをやりながら思うこととして、いつも顔合わせしている人々の中でも肝硬変などで腹水がたまっていたり、片足を痛めている人がいないということが気づきます。入院していて、治療続けている人ならよいのですが、本当に顔をみせない人に関しては心配しながらも、パトロールをして寂しく思います。越年越冬のパトロール、医療相談、福祉行動、そして最も多い救急搬送を通じて、病院に入った人に対して、毎年、面会行動を行なっていますが、去年から今年にかけて救急車で病院に搬送

された人は、五人いて、その中の三人は中央公園内で生活している仲間です。もっともパトロールをして助かることはポケットパークにある医療テントが24時間機能していることです。医療テントに医療従事者のスタッフが常時いることによって、パトロールで発見した病気の人、衰弱している人に関しては、このテントにつなげることができました。タクシーを使ったり、パトロール班の仲間が付きそいながら、テントに来てもらった人は四人います。中でも体力が回復した仲間が、医療テントや医療相談に来てくれたことは、常時パトロールに参加してくれた仲間達のおかげだと思っています。昼間の炊き出し活動から夜のパトロールに至るまで参加してくれた仲間達、この場を借りて本当にありがとう、お疲れ様でした。

今回のパトロールについては中央公園ポケットパークを拠点にしながら、第一陣、第二陣と二班、そして広域パトロールと三班に分けて行ないました。広域パトロール班については、池袋の仲間と合流して行なってもらいました。第一陣のパトロールは中央公園内を回って、東口駅回り、又西口駅回りをパトロールして、十時前に戻ってきて、第二陣のパトロールは十時すぎに出発して東口界隈又大久保地域界隈をパトロールしながら最後に西口地下広場をパトロールして帰ってくるというものです。パトロール班に加わった仲間に関しては、常時五人以上、多い時で十人以上の仲間の参加がありました。又その中でも積極的な仲間は、第一陣から第二陣と二つのパトロールに参加しています。パトロール班の仲間に関しては、第一陣、第二陣ともポケットパークに戻って、医療テントと共に設置した大テントに泊まりこみました。

大テントは越年と共に過す仲間達で一杯になります。私も大テントで寝ていましたが、足りない毛布



を私にかけてくれた料理長にこの場を借りて感謝します。そして夜食もありがとうございました。

こんな形でパトロール班を行なってきましたが、30日、私が三多摩の人達とやっている多摩川河川敷、もち配りパトロールを終えて、第一陣、第二陣の新宿パトロールを終えて、ノックダウンしてしまい、31日の高田馬場のパトロールに参加できなかったことは誠に申し訳ないと思っています。

でも去年から今年にかけて、連絡会の昼間のイベントに参加できたことは、私個人の感想で言えば、パトロール漬けの日々にならずに仲間達と越年をすごせた一つの成果だったのではないかと思います。

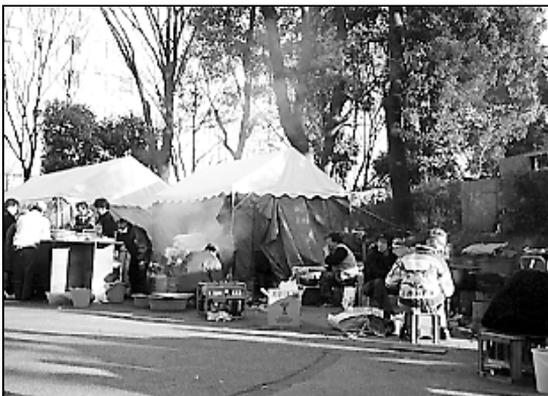
最後にこの越年越冬時における西口地下広場の状況を報告します。

普段のパトロール、中央公園、西口、東口を回って思うのは、テントやダンボールハウスに定住している人達がほとんどです。

新宿ではこれらの地域をのぞいて、むしろ大久保地域、駅周辺、西口地下広場は、新宿に来てまもない流動している人達を多くみかけます。今までの新宿の越年ではこういった流動している人達の中から、精神衰弱に至った人や救急搬送を必要とする人が出てきました。今回は中央公園からの救急搬送が三人と定住している人達に急病の人が多かったです。そして第二陣、夜間のパトロールの中で、東口駅構内、西口地下広場と寝具「毛布」を持っていない人達がかなりいました。

#### 西口地下広場の状況

12月28日	夜11:00	100人
12月29日	夜11:30	115人
12月30日	深夜0:15	107人
12月31日	深夜2:10	130人



1月1日	深夜0:00	143人
1月2日	深夜0:40	170人

年末の28日から翌年2日にかけて、多少の時間帯の違いはありますが、一日十人以上の割合で増えているのがわかります。

深夜のパトロールの中で、これらの毛布を持っていない仲間に対しては、パトロール班の仲間が「サバイバルシート」を配り、使い方を教えました。地下広場では、ある仲間によると越年明けから午前2時の段階で200人近くいたそうです。なぎさ寮の入寮が始まって、西口地下広場の数も西口、東口の普段のパトロールの中で減少してきています。

流動している仲間達に、パトロールで、情報を伝え続け、そして共に越年をすごすことを呼びかけてきました。

越年越冬と嘘は、3月春に至るまでの長い冬場の中における一つの手段です。

新宿はこれからも仲間の命を仲間で見守り、冬場をやり抜いていくパトロールは続きます。

越年闘争を通じて、仲間と培った力を支えにしていきたいと思っています。

ーまだ会わない仲間達や支援者を巻き込みながらー

#### その後の西口地下広場の人数

1月9日	23:30	1月15日	23:30
合計人数139名		合計人数123名	
内 毛布72枚		内 毛布72枚	
寝袋2組		寝袋9組	
シート10枚		シート5枚	
1月10日	午前2:00	1月16日	午前2:00
合計人数221名		合計人数176名	
午前3:00		午前3:00	
合計人数190名		合計人数155名	

(パトロール班Y調べ)

# 今年も大活躍！ 医療班活動報告

医療班 稲葉剛

新宿連絡会医療班は、毎月第2日曜日の医師による医療相談会や第4日曜日の医療パトロール（医療従事者が参加しての夜回り）など通年的な活動を続けているが、越年期は中央公園ポケットパークに設置した医療テントを中心とする24時間態勢を組み、仲間の健康問題に取り組んだ。12月30日と1月3日には炊き出しの前後、広く呼びかけての医療相談会を行なったが、それ以外の時間帯でも医療テントには医師か看護婦が昼夜二交代のローテーションを組んで常駐し、仲間の健康相談にあたり、市販薬の支給や怪我の応急処置、体力の弱った仲間へのケア等を行なった。

12畳の医療テントは、半分を相談スペース、半分を具合の悪い仲間を一時保護するスペースとし、年末年始の区役所が閉鎖する期間中、「仲間の臨時健康相談所」として機能した。幸い、仲間の間でも「越年期間中に具合が悪ければ医療テントに相談に行けばよい」ということは広く認知されており、風邪などの相談で自らテントを訪れる仲間も例年より多く、「衰弱している仲間が新宿駅構内にいる」との仲間からの情報提供が高齢の仲間のテント保護につながるという場面もあった。

医療班は、パトロール班とも密接に連絡をとりあい、パトロールで出会った具合の悪い仲間をパトロール班の誘導で医療テントに連れて来てもらう等の連携を行なった。医療班としても、31日と3日に中央公園内のパトロールを行なったほか、四谷や中野といった周辺地域の見回りも行ない、四谷で出会った仲間をテントで一時保護するという場面もあった。

また3日には渋谷のじれん、全都実・池袋がそれぞれの地で行なった医療相談会に医療従事者を派遣し、池袋では一年ぶりとなる医療相談会を実現させた。現在、こうした医療分野における地域・団体を超えたネットワーク作りについて、他団体との協議を進めているところである。

越年期の活動に参加したボランティア医師は計8名、

看護師は10名以上にのぼった。また鍼灸師、医学生、看護学生、ソーシャルワーカーらもボランティアとして数多く参加した。こうした医療関係者への幅広い呼びかけについては、「国境なき医師団・日本」、「国際保健協力市民の会（SHARE）」といったNGOの協力を得ることができた。この場をお借りして感謝申し上げます。

## ★越年期医療相談活動の記録★

■12月30日医療相談会  
相談14人(紹介状3人)  
歯科相談11人(紹介状4人)  
薬のみ63人

■1月3日医療相談会  
相談28人(紹介状11人)  
歯科相談6人(紹介状3人)  
薬のみ28人

■医療相談会を除く医療テント対応  
医師が相談し、紹介状を渡した人 14人  
相談して市販薬支給 延べ293人  
テントでの一時保護 最大時4人

■越年期間中、紹介状を渡した人 総数 35人  
うち、救急入院2人、福祉行動参加26人、不明7人

■越年期間中の救急要請 5人（入院3人—いずれも国立国際医療センター）

■1月3日池袋医療相談会  
相談16人（紹介状8人）  
うち5人が翌日、豊島福祉事務所を通して受診

## ★福祉行動記録★

1月4、5日そして連休をはさんだ9日、一連の越年闘争の締めくくりとして、32人が参加して新宿区福祉事務所に対する福祉行動が行われた。その結果は以下のとおりである。（＊は紹介状あり、・は紹介状なし）

### <入院3人>

- \*男性(56) 高度貧血、るいそう、胃痛  
4日、高田馬場病院入院
- \*男性(53) 失神発作、精神分裂病疑い  
4日医療センター受診、5日桜ヶ丘保養院受診、8日東京医大病院受診、10日西八王子病院入院
- \*男性(52) アルコール依存症・胃腸炎  
4日医療センター、10日新大久保寮、15日医療センター入院

### <通院・さくら寮入寮 7人>

- \*男性(40) 意識消失・けいれん発作  
4日社保中、さくら寮入寮
- \*男性(63) 糖尿病  
4日長汐病院、さくら寮入寮
- \*男性(67) 衰弱  
4日さくら寮入寮、5日新宿御苑クリニック
- \*男性(52) 糖尿病  
4日医療センター、5日新大久保寮入寮、9日さくら寮入寮
- \*男性(50) 嘔吐、衰弱s  
5日医療センター、さくら寮入寮
- \*男性(65) 高血圧  
5日社保中、さくら寮入寮
- ・男性(56) 高血圧  
5日医療センター、さくら寮入寮

### <ドヤ保護 1人>

- \*男性(68) 前歯う蝕  
4日新宿荘(生保)、後日歯科受診

### <通院・法外宿泊 4人>

- \*男性(43) 下腹部痛  
4日高田馬場病院、新大久保寮
- \*男性(42) 右足指白癬  
4日春山外科、新宿荘

- \*男性(49) 頸髄神経根障害  
5日医療センター、新大久保寮
- ・男性(75) 生活相談  
5日新大久保寮

### <通院のみ 14人>

- \*男性(49) アルコール依存症、胃腸炎、左胸部痛  
4日春山外科、10日松沢病院受診(予定)
- \*男性(55) 変形性頸椎症  
5日医療センター、10日コルセット作製
- \*男性(51) 仙骨部発疹  
4日社保中
- \*男性(51) 右大腿骨骨折後大腿痛  
9日大久保病院
- \*男性(42) 腰部椎間板ヘルニア疑い  
4日春山外科
- \*男性(54) 左肋骨骨折、糖尿病、高血圧  
5日社保中
- \*男性(55) 高血圧  
5日社保中、19日検査結果
- \*女性(57) 右肋骨骨折疑い  
5日医療センター
- \*男性(60) 扁桃腺肥大、舌潰瘍  
4日社保中耳鼻科、5日歯科
- \*男性(53) 義歯作製  
4日社保中、2月21日予約
- ・男性(53) 高血圧、糖尿病  
5日東京医大病院、15日22日予約
- ・男性(63) 発熱、下痢  
4、5日大久保病院受診(被爆者手帳)、9日福祉通して受診
- ・男性(58) 下痢  
5日社保中
- ・男性(51) 心不全入院退院後  
5日榊原記念病院

### <後日回して再来所せず 3人>

- \*男性(58) 痔出血  
5日再来所予定だったが、来ず。
- \*男性(59) 義歯作製  
5日再来所予定だったが、来ず。
- \*男性(53) 義歯作製  
「開業医はまだやっていないので9日に来い」と言われるが、9日来ず。



## 20世紀路上に死す！



# 新世紀カウントダウン を新宿中央公園で！

12月28日(木)より1月4日(水) 新宿中央公園ポケットパーク  
 21世紀への準備による世直しと越年越冬闘争

世紀が変われど、路上に人々が生きてる。石油と電気による「経済発展・成長の世紀」は都市の公園や路上に必死に生きる人々を置き去りにしながら、新世紀への未来なき冒険のまふ終焉しようとしている。この百年の間、人々の「豊かさ」のためにまき散らした「酸化炭素の数々は本当に人々を本当に豊かにさせたのだろうか？本当に人々を幸せにさせたのだろうか？20世紀末に地球規模で現出した「ホームレス」「新たな貧困」は一体なにを20世紀に、そして来る新世紀に示しているのだろうか？

「豊かさ」を信じるものは断り続けるが良い。「物質」を信じるものは株価の動向で一喜一憂してが良い。やがてその舞踏会は泡沫の夢であることをやがて悪魔が教えてくれる。

この世に生きるという苦しみと喜びのみが、この世を変えるという真実を...

ここに生きてきた仲間が疑問から焼耐くらって、それでも明日が照れる事を誰が知ろう。夢と情熱を持って、それでも生き抜こうとする細々とした必死な形相を誰が見よう。

路上で生き、路上で生き、路上に涙をこぼし、路上を憎み、路上を愛し、路上で笑えあえる人々の群を歴史は何と呼ぶのだろうか？雑踏の中、誰にも気付かれず薄笑いを浮かべながら横たわる死体を時代は何と呼ぶのだろうか？

歴史よ、時代よ、20世紀よ、道台へとそのまま行進せよ、踊りながら行進せよ、一撃でおまえの頭はふっとぶだろう。その血をなめ、我ら新世紀を路上で生きよう。

府内寺の除夜の鐘はワルブルグスの恐怖の鐘を打ち鳴らし続けるだろう。

いざ、新宿越年闘争へ！21世紀カウントダウンは新宿中央公園の路上にて！我ら酔い潰れた悪魔の鐘をあげよう！

### 越年越冬祭

29日、30日、31日と連日午後6時過ぎより  
 ラビーナリ、梅津サックス、大原バイオリン  
 など超一流の路上支援ミュージシャン連日登場！

### 21世紀路上カウントダウン祭

31日、午後7時過ぎより カラオケ大会、  
 既白歌合戦上腕観音、年越しそば無料配給、  
 そして、21世紀カウントダウン大競杯！  
 (以商朝まで宴会？)

### 新春映画祭

1日、2日と連日午後5時過ぎより  
 「只はつらいよ」「蒲田行進曲」名作が自慢  
 の大型スクリーンにて路上に登場！

### 新春餅つき大会

2日、午後2時より餅つき大会そして、  
 3時より 路上芝居のマスター「さあらい  
 飾徒」今年も新宿路上に強い込み！餅食い  
 ながら野次を飛ばそう！

「年越しと共に！」

12月28日チラシ

仲間たち！

寒さもここ数日で一段と厳しくなってきた。いよいよ冬本番の季節となる。防寒対策をしっかりやり抜き、また弱った仲間を支えながらこの冬をみんなの力で乗り切ろう！

俺たちは本日、中央公園ポケットパークを拠点とする越年闘争に突入した。連日夜7時の炊き出しで仲間の腹を支え、医療が必要な仲間への支援活動を中心にこれ以上の犠牲者を出さないための活動を医療テントを中心に1月4日朝まで連日取り組んで行く。

24時間体制で本部および医療テント拠点を維持しながら、パトロールで仲間のつながりを作り、正確な情報を提供しながら、役所が閉まる年末年始を何とか俺たち自身の力で乗り切っていきたい。このチラシも連日発行し、仲間が必要な情報を提供していくので参考にしてもらいたい。

炊き出しも明日からは中央公園での「おかず作り」の共同炊事が始まる。また、パレットばらし作業や、山谷に行つての「ごはん炊き」作業などもある。これらの作業を手伝ってくれる仲間は朝11時に中央公園集合だ。常時手伝ってくれる仲間への宿泊体制は整っているのでも気軽に参加して欲しい。みんなの力を合わせて、越年闘争を活気のある取り組みに行こう！

さて、山谷対策の「なぎさ寮」1週間宿泊は明日、29日から31日まで受付をしている。二千名規模の対策で、七泊無料で泊まれるので利用する仲間は利用してみよう。受付場所は裏面の地図をよく見てもらいたい。早い仲間は前の日の晩から並んでいるので出来るだけ早めに行つた方がいいだろう。また、山谷対策なので間違っても「新宿から来た」と面接の時に言わないように注意をしよう。

どこへいようとも俺たちは仲間だ！それぞれの場所で頑張って年越しだ！

「苦しくとも！」12月29日チラシ

仲間たち！

中央公園における第七回新宿越年闘争も仲間の献身的な協力により、混乱なく開幕しました。1月4日の朝まで中央公園を拠点とする連日の炊き出しなどがありますので宜しくお願い致します。

中央公園ポケットパーク越年拠点の中でも医療テントは24時間、病気の仲間の緊急一時保護所となります。急な病気になった時の「駆け込み寺」のようなものなので、是非覚えていてください。本人が来れない時は、仲間が知らせに来てくれれば医療班の仲間が迎えに行く事もできます。もちろん、仲間が苦しんでいるなど急な場合は救急車を呼んで下さい。そして、出来ればその事も知らせてもらいたい。時刻と場所、氏名が分かれば、どこの病院に運ばれたのか、入院できたのか否かは問い合わせできます。

また、明日は医療相談会があります。調子が悪い、風邪を引いたなど色々な悩みにボランティアのお医者さんが相談に乗ってくれます。炊き出しの後、医療テントの前にて相談会です。

山谷対策の「なぎさ寮」1週間宿泊の受付は31日まで隅田川リバーサイドスポーツセンターで行なわれます。それぞれ朝8時半まで並んで下さい。あくまでこれは山谷の日雇対策なので「新宿から来た」などと言うと入れませんので注意して下さい。

それと、中央公園では昨晩、放火と思われる火災があり一件全焼してしまいました。幸い怪我人はいませんでしたが、空気が乾燥していますので火の元には十分注意をお願いします。

明日の晩は6時すぎから毎年来てくれている梅津さんのサックス演奏会もあります。苦しい年越しも、ささやかな楽しみも味わいながら仲間と一緒に過ごしていこう！

「古里新宿」12月30日チラシ

仲間たち！

暖冬と言えどもここに来て朝晩の冷え込みは一段と厳しくなっている。年末年始は役所が閉まっているので病院に行ける機会はめっきりと少なくなる。もちろん大事を取って緊急な場合などは救急車を呼ぶしかない。中央公園では28日、29日と救急で二人緊急入院をした。その内一人は仲間が救急車を呼んでくれ、翌日病院へ面会まで行ってくれた。仲間が率先して他の仲間の健康の事を心配してくれ、動いてくれるのは本当に助かる事だ。みんなが新宿の仲間一人ひとりの事を気遣って行けば百人力である。仲間の命は仲間を守る。これが俺たちの越冬の基本だ。毎晩のパトロールにも多くの仲間が夜遅くまで率先して参加してくれている。考え方や立場が違おうとも、「困った時はお互い様」である。それぞれ出来る範囲で仲間を支えあって、苦しい厳しい年越しをどうにか乗り切ろう。

中央公園医療テントは24時間体制を組んでいるので何かあったら気軽に相談してもらいたい。

また、本日、池袋でも南池袋公園で越年闘争が始まった。俺たちの全部の仲間のつながりは新たな取り組みを次々と生み出しいる。渋谷でも山谷でも越年の取り組みが展開されている。俺たちも今晚から池袋の仲間と連携しながら豊島区、新宿区のエリアを広域でまわるパトロールも開始する。飯場帰りの仲間、地域で孤立する新たな仲間と出会い、仲間のでっかいつながりを作りだして行きたい。

今年もあとすこしで終り、明日は大晦日だ。雨がちょっと心配だが、6時からの音楽会、また炊き出しの後、中央公園でカラオケ大会、紅白歌合戦の上映を行ない、21世紀のカウントダウン、新年の夜明けを一緒に酒でも飲み合いながら祝して行こう！（雨天の場合は都庁下での炊き出しだけは必ずやります）

「さらば世紀！」12月31日チラシ

仲間たち

昨日の医療相談会には16名の仲間が相談に訪れた。割と高齢の仲間が風邪を引いたりとはり弱い立場の仲間が厳しい状態になっている。30日も中央公園から救急搬送があるなど急病人もひきりなした。急に激痛が走ったり、動けなくなったりという場合にはすぐさま救急車を呼ぶなりして対応してもらいたい。また医者にかかる必要がある仲間は、年明け4日、福祉から病院に行くため体調を崩さずに頑張ってもらいたい。中央公園の医療テントは24時間体制なので、相談や薬が欲しい仲間は顔を出してくれ。尚、次回の医療相談会は3日の午後7時から行なう。

今日は大晦日。俺たちの長くて厳しかった一年がようやく終わる。今年には念願の自立支援センターを勝ち取り、また初の国会デモを行なうなど、俺たちも頑張ってきたが、それもやはり微々たる成果でしかない。

そして、俺たちは七年前と同じよう仲間と一緒に年を越そうとしている。俺たちにとっての20世紀は「転落と貧困と路上死」の世紀であったかも知れない。貧富の格差はどんな社会体制でも起こり、貧しい人々はどうな世の中でもおろそかにされ、歴史の闇に消え、貧者の怨念だけが地下水の如く細々と伝承されて来た。誰がこの歴史に楔を打つか？この疑問の答えは曖昧であり続けた。

けれど、路上で生き、路上でつながる俺たちこそがその主人公であるというある意味では当たり前だが、この世紀末の十年の中でようやく刻印された。仲間がたたかい、つながる事。これが貧しき民が唯一歴史に遺せる真実である。共にたたかい、共につながり、共に生きる。この貧者の日々の苦しみと喜びの営みこそがこの世を変えられる。

仲間たち！何があっても生き抜こう！さらば20世紀！さらば路上死！

「おめでとう！」1月1日チラシ

仲間たち！明けましておめでとうございます。

多くの仲間と共に今年も路上にて無事年を越せた事に感謝します。21世紀の夜明けを新宿の路上で仲間と共に迎えた事実を、俺たちは仲間一人ひとりの顔と共にしっかりと記憶の中に刻印します。共に生きるすばらしさ、共に支え合う頼もしさ、これさえあれば、これから何があろうとも俺たちは前を向いて生きられる、そんな思いで一杯です。

新宿の仲間のたたかいは今年で八年目を迎えます。もちろんこれまでの通り仲間の諸権利を守るため俺たちは今年も全力でたたかいます。「仲間の命は仲間を守る」これが俺たちのたたかいの基本です。そのためパトロール、福祉行動、医療相談など日常活動をより一層強化し、また様々な仲間の生きるための相談に乗っていきたくと思います。そして、世紀も新しい世紀に変わりました。「路上死のない21世紀」「貧しくともやり直しが出来る社会」という大きな目標を掲げ、貧しき民の政治的なたたかいはより本格化して行きたいと思っています。他方で自立支援センターなど「路上生活者対策」の拡充、拡大を仲間と共に実現させ、失業、半失業状態の路上の仲間が一人でも多く「就労自立」出来るよう、また病弱な仲間、高齢の仲間が確実に生活保護を獲得し新宿の地域の中で暮らしていけるようたたかって行きたいと思っています。

夢と希望を持つ事、どんな実現不可能と思われたことでも、俺たちは仲間と共に路上から挑戦し続け少なからずの成果をあげてきました。今年も俺たちは挑戦し続けます。

たとえ路上の正月だろうが、俺たちにはこれだけの仲間がいる。これを確信にしながら一歩、一歩前進して行きたいと思っています。

仲間たち！今年も新宿連絡会を宜しく！共に良い一年にしていましよう！

「正月路上に有り」1月2日チラシ

仲間たち！

元旦から北風が強く寒さが一段と厳しくなってきた。体調不良を訴える仲間も増えて来た。昨日の夜は二件救急搬送があり病院に運ばれた仲間がいた。病気は早期発見早期治療が肝心だ。明日の夜は越年最後の医療相談会があるので調子の悪い仲間は気軽に相談に来て欲しい。

また、年明け4日には新宿福祉事務所への集団申請行動がある。病気で通院、入院したい仲間、概ね60歳以上の仲間や寮やドヤで生活保護を受けたい仲間、女性や障害を持った人で寮などに入りたくい仲間など、みんなで行けば役所など怖いものなした。

10日には「なぎさ寮」への2週間宿泊も始まる。新宿からは百名規模の仲間の入れ替えとなる予定だ。役所の「対策」は微々たるものでしかないが、これから、使えるものはどんどん使って行こう。

年明けの仕事に出かける仲間もいる事だろう（モグリの手配師が中央公園や駅にも来てるので気をつけてくれ！）、また福祉にかかる仲間もいるだろう、そして新宿の地に残って頑張っていこうという仲間も多いだろう。でも、どこにいても俺たちは同じ飯の釜を食い、共に年を越した仲間だ。この越年の経験を忘れずに、そして出会った仲間を大事にしながら、それぞれの道を歩んで行こう。俺たちは今後もっと大きなつながりを作りながらでっかくてあったかい団結をこの新宿の地に築きあげていく。多くの支援者に支えられながら自前の力で俺達は越年闘争をやり抜いている。仲間が集まれば、そして、それぞれの力を出しあえば、なんだって出来る。それが俺たちの大きな確信だ。この確信で今年それぞれの場所で頑張り抜こう。

明日の越年最後の炊き出し、パトロールなど力を合わせてやり抜こう。

# 第二回池袋越年闘争

## ほのぼのとがっ堅実に終了

### 池袋越年闘争を終って

全都実・池袋 内田敏男

スケジュール的には12月30日から1月4日まで6日間、南池袋公園での越年闘争を終了しました。

まず29日から搬入の準備に入りました。要町に行って炊事関係、プロパンガス、コンロを搬入、それはSさんが担当。午後からは上石神井に行ってTやんのテントを搬入、これもSさんの協力です。あとは新宿からの大きなテントを搬入。29日夜にそれを設営して、29日から泊まり込み、4人、私とT君、N君、Tやん、4名が泊まり込みで万全を期してやる覚悟で以降毎日泊まり込んでおります。

30日は朝から搬入した道具の片付け、食事の支度、11時には山谷への飯焚きに2名が出発、残った部隊がおかず作りに専念し、6時から配食、その時の人数は90名。31日は昼から配食、30日に残った分を雑炊として出しました。その時は60名配食、3回くらい食べました。夜は6時から普通通り100名の参加者。あとは日によって人数が増え、一番最高は3日の日、昼が100人、夜が150人位来しました。

それから、医療相談会が3日にありまして、医師が亀戸のひまわり診療所の平野先生、スタッフとして新宿連絡会医療班の五十嵐真紀さん。受診者が16名、うち紹介状が8名でした。翌日の福祉活動に参加した人が7名、そのうちTさんが最初はライトハウスに保護されたんですが今は山手寮に入寮しています。あとの6人はそれぞれ長汐病院での青空通院を行なっています。あと1名72歳の方が生活保護を受けて今山手寮に入っております。先生からは「寒いところにいるので、どうしても鼻かぜの人が多。仕事をしたいと言っている人がたくさんいた。(患者が自分で病院を選ぶこ

とができず、福祉が病院を決めるシステムになっていることに関して)もっと福祉が自由に病院を選べるようになっていくといいのに」とのコメントをもらっています。五十嵐さんのまとめと感想は「福祉事務所もケタオチで、普段から身体の問題を解決しやすい環境にない池袋なので、この機会をおおいに活用して欲しいと期待していましたが、炊き出しに来ていた人が100-120人だったことを考えると、16人という受診者はとても多かったと思います。平野医師一人でたいへんでしたが、カゼ薬だけ、という人にも待っていてもらい、丁寧な診察をして頂きました。たいへん心強かったです。二人待ちきれず帰ってしまったけれど、他の人はみんな寒い中辛抱強く待っていてくれました。受診者は、60歳近い人が多く、決まった寝床を持たず、毛布も持っていない人が半分くらいいました。たまたまかも知れませんが「池袋の人は(新宿に比べて)医療に関心がないみたいだ」との声もありましたが、身体の問題は大きかれ小さかれ誰でも抱えていることなので、それをどれだけ掘り起こせるかが大事だと思っています。」との事です。私自身もどれだけ掘り起こせるかが大事であると思っています。今、パトロールにおいて掘り起こしながら福祉事務所への対応を毎



日、進めております。

毎晩のパトロールの人数は、3日の日は百人を欠けて95名という数字となって、後はだいたい120名前後でした。普段（160-170）よりだいぶ人が減っております。原因は山谷の越冬対策に入った人が多いと思いますが、それにしてもちょっと少ないのは気がかかっている所です。

1月1日にはカラオケ大会をやりましたが、あまり寒いので歌う人が少なく途中で止めました。

広域パトロールは事前の調査があまりできず失敗だと思っています。昼間の内に回っていますが、深夜パトはほとんどやっていなかったの少ないだろうと推測していたのですが、あれほど少ないとは思っておりませんでした。それでも練馬区方面で10名の仲間と出会い、昨年殺入現場でも相変わらず2名の仲間が野宿しておりました。あと椎名町方面でも野宿しておりましたが、人がおらずただ2件くらい小屋があっただけでした。大塚は小屋はほとんど見当たらず駅の中に普段は10名くらいいるのですがその日はいませんでした。

昨年に比べて、今年はだんご状態で活動を一本に絞ってよかったと思います。皆も協力してくれて、南公園の住人たちも積極的に協力してくれまして、少ないスタッフの中、あれだけ出来たことは大いに評価出来ると思います。

池袋は特殊な場所で流動者が多く、定住者がほんの一部しかいないのでいつも人が変り、顔なじみの人が少ないので、いろいろと声をかけるのですが反応が少なく憂慮している所です。それでも1月10日のなぎさ寮受付には25名が決まり、現場で一人いなくなって実質24名が入っています。豊島区の自立支援センターは課長に聞きましたら、住民の説得の段階に入って場所はもう決まっているんですけど、発表されずにいますが、近い内、5月末ないしは6月の初旬には開設の見込みだと思っています。これも今後多いに期待したいと思います。私も最近、火事騒ぎがり、血圧が上がって2、3日落ち込んでおりましたが、これから気合いを入れて頑張りたいと思います。

(談)

## 池袋炊事の コック長Nさんに 聞く

初日に五釜焚いて来まして、それで二釜半くらい余ってしまいまして、それでどうしようかと考えまして31日からじゃあ、昼飯もだしちゃおうという形で3日までやっちゃったという経緯です。

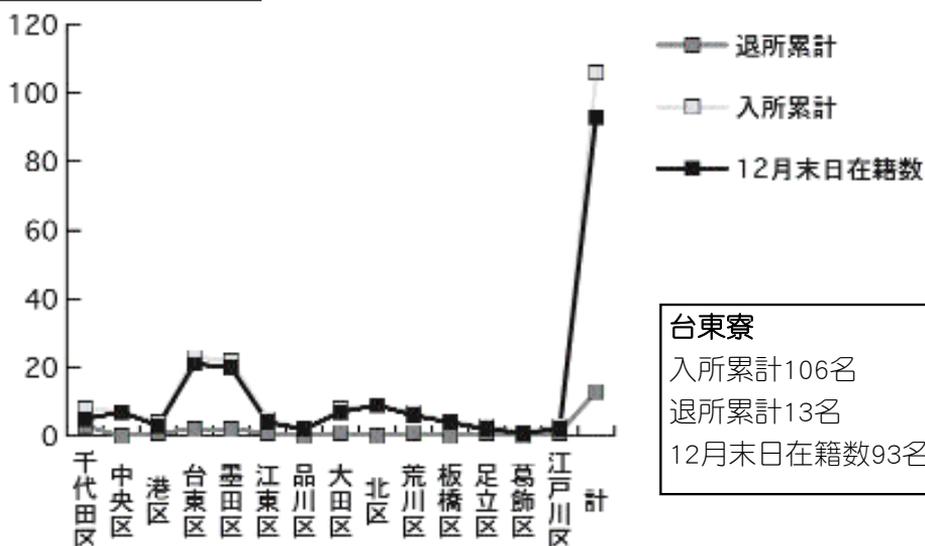
メニューは最初の日はもらったマグロ。二日目は肉いれて作って、1日の日に去年念願だった雑煮を昼に出せたという事は非常に今年はやってよかったなと。今年は昼夜だしだったので、池袋にはふだん炊き出しがないので、あるていど越年の期間中は満足感みたいなものをみんなもって、終ってから何人かに挨拶されて「どうもありがとう」なんて言葉がかえってきて、まあ非常にやってよかったみたいなおところあります。なんだかんだ言って人が少なかったんで昼のパトロールが出来ない、夜のパトロールも二人三人とそんな感じで、まわったんですけど、逆に人が少ない分だけスムーズに動いたというか、船頭が多くないから、山のぼらなくてすんだっていうか、非常にスムーズな運営だったと思うんです。あと、非常にそれなりにかなり成果あったと思うんですけどね。自己満足かもしれないんですけど。そんなとこです。(談)



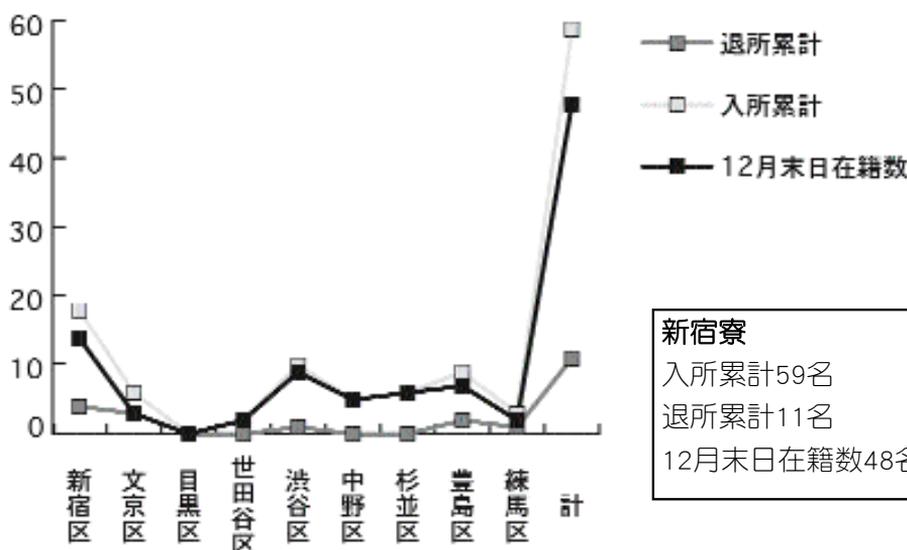
1月14日日雇全協集会で発言する池袋の仲間

# 開設後の自立支援センター 台東寮、新宿寮の状況

12月末日現在の入退状況

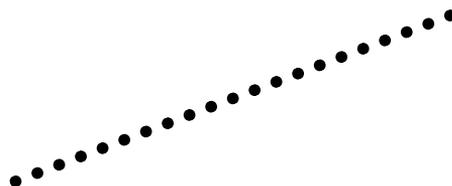


**台東寮**  
 入所累計106名  
 退所累計13名  
 12月末日在籍数93名

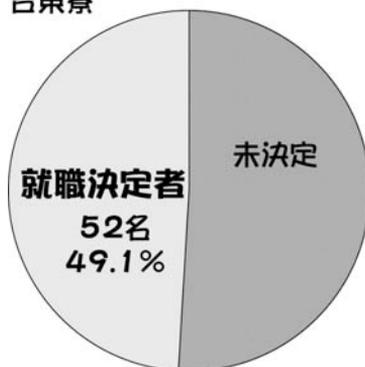


**新宿寮**  
 入所累計59名  
 退所累計11名  
 12月末日在籍数48名

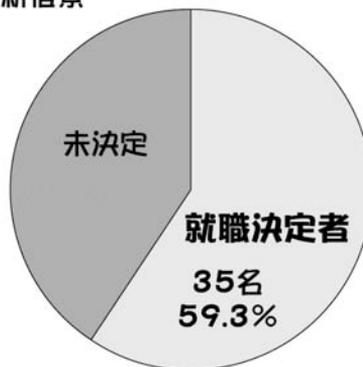
	平均年齢	最高年齢	最低年齢
台東寮	51.7歳	67歳	32歳
新宿寮	49.3歳	64歳	22歳



台東寮



新宿寮



東京における自立支援センターは私達の要求運動の結果、11月から都区共同事業として開始されています。新宿連絡会では新宿寮への毎週の面会激励行動を重ね、寮内の仲間の自主的な自治活動を促しながら、毎週の寮長との「話し合い」を設定、設備面など細かな点について改善を申し入れテレビの視聴時間の延長、入浴時間の変更、乾燥機の設置、鍵つきロッカーの設置などを勝ち取りながら入った仲間が気持ちよく過ごせる寮にする努力を続けています。また、年末12月21日、東京都福祉局に「就労支援事業の改善」の申し入れ書を提出し交渉を行ない、就労支援の強化を求めている所です。

（「申し入れ書」の全文はホームページ  
<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>  
 にて閲覧できます。）

また、12月末までの利用状況が判明したので図表にして報告します。見ての通り、数においては各区ばらつきはあるものの、目黒区以外は全ての区で利用しています。心配していた就職率も全体で約53%と入った仲間が必死で

仕事探しをしている姿勢が反映しているものとなりました。就職決定者の内、住み込みの6名以外は引き続きセンターから職場に通い、近い将来アパートなどに転宅する予定です。既に住宅確保をした仲間が2名おり、センターを利用して野宿から脱した仲間とのつながり（保証人問題なども含めて）が重要になってくると予想されます。職种的には清掃関係、管理・警備関係が全体の約5割を占めています。

また、残念ながら規則違反などの理由での退寮者が15名出ています。

11月の第一段で入寮した仲間はそろそろ期限の2ヶ月目を迎えますが、基本的に就職活動をしている限り期間延長が認められるようです（最長で4ヶ月ですが）。延長問題についての基準が1月5日付けで特別区人事厚生事務組合から「通達」として出ており、特別な理由がない限り福祉事務所や寮長の恣意的な判断での退寮は認められないようになりました。

新宿連絡会は毎週日曜の面会激励行動を通してながら今後とも入寮した仲間を支えて行くつもりです。

# 笠井の仙台紀行

孤独死のない21世紀を!!

仙台キャンペーン（写真展、意見交換会）に行ってきました。



東北仙台にも野宿を余儀なくされた人々がいる。おそらくそれは今始まった事ではなく、仙台くらいの大都会においては、社会の枠から弾き出された人々の歴史は脈々とあったであろう。それは東北の都市建設を担う人々を吸収する駅周辺の労働市場の存在と、都市ならではの雑業に従事して来た人々の「成れの果て」の姿として、ある意味においては都市生成の必然的な結果としての野宿者の存在は、今や覆い隠す事すらできない事象として都市を「困らせる」。

東京に出稼ぎに出て来れる失業者、半失業者は幸せな方である。今や新幹線も出来、東京との距離も短くなった。そこに仕事があるかないかはともかくとして、そのことによる多少の夢は見られる。けれども極寒の地に生まれ、極寒の地で貧困に苛まれる人々はいかなる心情であろうか。

東京新宿の光景を写し出した木暮茂夫氏と吉田克美氏の写真展示がこのキャンペーンの主役であった。新宿、東京の野宿者は写し出され、記録として残り、また様々な形で表現の手段を持っている。それは勝ち取ったものだと言えばそうなのであるが、関東、北陸、東北の地の貧困者との社会的な注目度の合いの落差は感じざるを得ない。「東京の野宿者を支援して下さい。東京に米を下さい。」それは東京の傲慢さである。

このキャンペーンを主催した結城氏は仙台市での野宿者支援活動を地道に続けている。300名はいるという市内の野宿者を訪ね、衣類提供の情報などを書いたチラシをほぼ一人で撒き続けている。同行して野宿者に話しかける姿を見させてもらったが、下層の視線をもった語り口に好感をもった。また、結城さんを支えキャンペーンを共に作った「仙台自由クラブ」の精神障害者の人々も、仲間がホームレス状態になってしまった具体性から野宿者との接点を考え続けていこうとする心優しい人々である。

社会正義とか、ボランティア精神だとか、そういう大局的な見地ではなく、生きる事の中からの「つながり」で仙台の野宿者は見られている。その関係は東京にはない実にうらやましい関係であった。

もちろん仙台は東京から見れば気候的には過酷である。その中、冬の野宿は想像を絶するものがある。が、同情しようがしまいが、その中でも生きて行く事が出来る。公園や施設にダンボールハウスを作り、暖房の効いた地下街で休みと、どの都市でもはやお馴染みの姿の中にもどこか切実な逞しさを感じた。「地方都市にも野宿者がいる」なんていう「発見」めいた言葉の虚実は東京ではない都市の側からいざれ壊されて行く事だろう。

ホームレス現象という目に見える事象の中から何を感じ取るのか。それは様々であると思うが、都市の隣人として彼・彼女らが現実に生きているという事だけは知ってもらいたいものである。暖かい人々の手によって作られたこのキャンペーンはおそらくその一助になったと思う。どこに視線を置くかと言う事を改めて考えさせられた旅であった。 (了)



ふらり散歩風・仙台市青葉城趾からの光景

## 2001年新春 新宿連絡会IT化戦略始動！

新宿連絡会ではより広くホームレス問題を社会に伝達するため、旧来の印刷物発行に加えて情報伝達の電腦化計画を進めていきたいと考えています。

### 1.連絡会ホームページの刷新

旧連絡会ホームページは更新すらあまりされず放置され続けて来ました。これを全面的に改編すると同時に、最新運動情報、行政情報をすばやく更新する体制を作ります。

### 2.連絡会週刊メールマガジン、FAXマガジンの発行と配信

連絡会の運動情報をすばやくお届けするため、週刊メールマガジン、FAXマガジンを発行します。新宿現地で配布している連絡会チラシの全文、申し入れ書などの公式書類、週刊スケジュール、集会案内などを簡潔にまとめ希望者にメールもしくはFAXで週一回定期的に発送します。

### 3.連絡会news、「露宿」など印刷物のPDFファイルによる電子出版物化とメールによる配信

最新の連絡会NEWS、「露宿」をまず手始めにPDFファイル化し、希望者には有料でメールに添付して発送します。PDFファイルを開覧するソフトは無料でダウンロードできますのでコンピューターをお持ちの方なら誰でも購読できます。

\* 当計画はろじゅく編集室との共同プロジェクトで今年夏までにはすべての計画を始動させて行きたいと考えています。詳細に関しては次号連絡会NEWSにて公表できると思います。  
もちろん、印刷物発行、発送に関してはこれまで通りより力を込めて進めて行きます。

## 路上文芸総合雑誌

# 露宿

バックナンバー好評発売中！ (2号誌別冊です)

一冊 500円 (送料無料)、6冊まとめて 2500円  
(送料無料) で格安提供。売り切れ必死！買うなら今！

お求めは「ろじゅく編集室」まで

10号好評  
発売中！



### 購読申し込み方法

郵便振替用紙 (00160-6-190947ろじゅく編集室) に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい (発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

### 路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」(隔月刊)

〒170-0014 東京都豊島区池袋 1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp

URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

## 越年越冬闘争への物品、お金のカンパどうもありがとうございました。

新宿、そして池袋の越年越冬闘争への暖かいカンパに感謝いたします。おかげさまで無事年を越す事ができました。皆さま方からの支えに応え、越冬後段の諸活動、春の要求運動へ向けて頑張っていきたいと考えています。引き続きのご支援宜しくお願い致します。

池袋越年 会計				新宿調達分	
<収入>		<支出>			
池袋貯金	19.084	食材費	41.141	食材費 (調味料以外)	11.029
ふくろうの会	10.000	交通費	7.620	リース料 テント1張り	9.450
新宿	37.756	光熱費	13.199	発電機1台	9450
損金	2.619	雑費	8.399		計29.929
計	60.359	計	60.359	総計	60.359+29.929=90.288

引き続き越冬カンパ金、カンパ物品を求めています。本年は引き続き炊出しなどの路上支援を続けると同時に、自立支援センターや生活保護施設から「卒業」した仲間に対するネットワーク(保証人提供などの共済団体)作り、全都の医療体制のネットワーク作りなどの事業化を進める予定です。野宿者、そして元野宿者や貧困者の要求闘争と団結形成に向けたたたかいを私達はやり抜きます。そのための広い支援を求めます。

## 新宿連絡会2000年11月期-2001年1月期 (1月26日まで)

会計報告		<支出>	
<収入>			
前期繰越金	160.225	炊出事業費	300.402
炊出しカンパ	83.100	医療事業費	61.438
活動カンパ	77.000	越年越冬事業費	470.137
通信物カンパ	21.000	自立支援事業費	12.710
越冬カンパ	3,621.050	池袋事業費	90.000
その他カンパ	616.570	交通費	153.150
事業収益	7.400	通信費	100.137
その他収入	20.000	広告宣伝費	107.886
		消耗品費	49.139
		福利厚生費	49.429
		家賃	90.000
		光熱費	4.725
		雑費	75.039
		小計	1,564.192
		次期繰越金	3,042.153
計	4,606.345	計	4,606.345

## 新宿連絡会NEWS / VOL.21 2001年1月30日発行 (隔月刊) 定価100円

編集・発行 新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議 (新宿連絡会)

111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館5F

電話・FAX 03-3876-7073 もしくは 090-3818-3450 (笠井)

カンパ金送付先・郵便振替口座 00170-1-723682 「新宿連絡会」

メール・inaba@jca.apc.org http://www.jca.apc.org/nojukusha/shinjuku/

編集協力・ろじゅく編集室 東京都豊島区池袋1-14-5-13 http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/